



あひるなんぢから

SHUKA
SHUKA

下北沢 駅前劇場 ahirunanchara.com
2019.9.12(木) ~ 9.16(月/祝)

登場人物

中井 ナカイ

嶋田 シマダ

緒方 オガタ ナカイ・シマダと一緒にバンドをやっている

安井 ヤスイ バンドのサポートメンバー

花園 ハナゾノ ナカイ・シマダと同じ会社で働いている

笹口 ササグチ ナカイ・シマダと同じ会社で働いている

古谷	フルヤ	オレンジイグニッションのギタリスト
村田	ムラタ	オレンジイグニッションのドラマー
小柴	コシバ	オレンジイグニッションのボーカリスト
梶原	カジワラ	ライブハウスのブツカー
真船	マフネ	ライブハウスの照明スタッフ
森川	モリカワ	ライブハウスの音響スタッフ
黒崎	クロサキ	コンビニ店長
柚木	ユズキ	コンビニ店員

公園。夏。夕方。

ベンチに座っている、シマダとナカイ。

中井 …あー。最っ高。

嶋田 …今、何か食べた？

中井 食べてねえよ。

嶋田 食べてないんだ。

中井 食べてねえよ。

嶋田 何か食べたのかと思った。

中井 どう見ても、持ってないでしょ、食べ物。

嶋田 そうだね。

中井 何を食べたと思ったんだよ。

嶋田 ベンチ。

中井 なんでだよ。食べるわけないでしょ。

嶋田 お腹が空いても？

中井 食べねえよ。お腹空いたからって、ベンチ食べちゃうヤツなんか人間じゃなくて、妖怪だろ。

嶋田 ん？

中井 「あーあ、お腹空いたなあ。よし、いっちょベンチでも食べてみるか。ちよつとはじっこをむしり取って、どれどれ？あ、意外と美味しいなあ。」こんなヤツは妖怪だろ？

嶋田 ベンチを食べる妖怪なんかいるの？

中井 知らないけど。

嶋田 そうだよね。妖怪に詳しい人じゃないもんね。

中井 うん。

嶋田 でもさあ、妖怪ってさあ。

中井 妖怪の話、まだする？

嶋田 なに？

中井 あんまり興味ないわ。

嶋田 あ、そう。

中井 うん。

嶋田 じゃあ。ベンチってさあ、何語なんだろうね？

中井 それも興味ねえわ。たぶん普通に英語だし。

嶋田 そっか。

中井 早く聞いてよ。

嶋田 ん？

中井 何が最高なの？って。

嶋田 何が最高なの？

中井 聞いてくれるんだね。

嶋田 そりゃ聞くでしょ。聞いてくれて言われたんだから。

中井 そうなんだけど。私がそれをずっと待ってた、ってことはわかってる？

嶋田 わかってるよ。わかってて、わざと聞かなかったんだから。

中井 意地悪なヤツだね。

嶋田 意地悪なヤツだよ。

中井 ：もう1回聞いてくれる？

嶋田 なになに？

中井 もう1回聞いてくれないと、言い難いから。

嶋田 なにそれ、普通に言えばいいじゃん。

中井 いいから、聞いて。お願い。

嶋田 何が最高なの？

中井 私たちの人生。

嶋田 …ベンチってさあ。

中井 なんでだよ。

嶋田 なに？

中井 リアクションおかしいだろ。人生よりベンチに興味があるのかよ。

嶋田 そんなにベンチに興味はないけど。その、人生の話、あんまり面白そうじゃなかったからさあ。

中井 面白いとかじゃなくて、良い話だから。聞いて。

嶋田 いいよ。

中井 こうやってさ、夏の夕方に、友達とゆっくりとした時間を過ごせるのがさ、幸せってものだよなあ、と、今、しみじみ感じたわけ。

嶋田 うん。

中井 この間、本で読んだんだけど。青春って言葉があるじゃん。青春、青い春。

嶋田 ねえ、私、とつてもベンチの話がしたい。

中井 おかしいだろ。

嶋田 青春のことなんか考えたくないもん。

中井 青春の次は何だと思う？

嶋田 ん？

中井 青い春の次に来るのはなんだ？

嶋田 なに？

中井 春の次は夏でしょ。夏の色はなんだ？

嶋田 朱色。

中井 え？

嶋田 朱色の夏、朱夏でしょ。

中井 知ってるのかよ。

嶋田 知ってるけど。その後が白い秋、で白秋でしょ？

中井 知ってるのかよ。

嶋田 うん。

中井 知ってるのかよ。

嶋田 え？知ってちゃダメ？

中井 ダメじゃないけど。すげえ恥ずかしいじゃん。

嶋田 そうね。せっかく仕入れた豆知識を披露しようと思ったら、相手を知ってるって、とつても恥ずかしいね。

中井 わざわざそこまでしっかりと解説しないでいいわ。

嶋田 ねえねえ。

中井 なに？

嶋田 すっごい恥ずかしいね。

中井 意地悪なヤツだね。

嶋田 意地悪なヤツだよ。

中井 知らないふりしてほしかったわ。

嶋田 じゃあ、やりなおす？

中井 なに？

嶋田 知らないふりしてあげるから、やりなおせば？まだ続きあったんでしょ？話。

中井 シマダ、優しいね。

嶋田 優しいところもあるんだよ。シマダは。

中井 じゃあ、やりなおしてみようか。

嶋田 うん。

中井 春の次は夏でしょ。夏の色はなんだ？

嶋田 朱色。

中井 おい！当てるんじゃないよ！

嶋田 えー!?嘘!?当たってた?

中井 …あ、そっちの方向でくるの?

嶋田 なに?

中井 そっちの方向で、知らないふりをするとは思わなかったから。

嶋田 どういうこと?

中井 違う色を言ったりする感じでくると思ってたから。

嶋田 そういうことか。

中井 うん。そっちで頼むわ。

嶋田 わかったよ。

中井 春の次は夏でしょ。夏の色はなんだ?

嶋田 えー?何色とかある?

中井 そうそうそれぞれ。

嶋田 何色だろうなあ。うーん。…うつぶし色?

中井 それ何色?

嶋田 え?うつぶし色はうつぶし色だと思っけど。

中井 知らないわそれ。

嶋田 着物とかにあるじゃん。

中井 へえ、そうなんだ。ヘタクソか。

嶋田 なに？

中井 もっと普通の色を言ってよ。

嶋田 別に何色だっていいでしょ、どうせ間違ってるんだから。

中井 そうなだけでさ。やりにくいわ。

嶋田 そう。わかったよ、次はもっと上手に間違ってみせるよ。もう一回やり直してみて、はい、どうぞ。

中井 春の次は…いや、もういいわ。

嶋田 え？

中井 やり直すのも恥ずかしくなってきたから、普通に話すわ。

嶋田 そう、残念。次はうまくやれると思ったんだけどなあ。

中井 でね、若い頃のことを青春と言うならば、私たちくらいの歳だと、青春も終わって、朱夏じゃん。

嶋田 うん。

中井 それでさ。…おお。

遠くで花火が上がった音がする。

中井 こりや穴場だね。思ってたより、よく見えるよ。

嶋田 今、私たちは、人生と実際の季節の2つの意味で夏にいて。その夏に、こうやって、友達と花火見るなんて、幸せなことだよねえ。って、さっき、ふと思って、最っ高、とナカイは言ったわけだ。

中井 そう。その通り。その通りんだけど、自分で言いたかったわ。

嶋田 ああ、ごめんごめん。

花火は上がり続けている。

暗転。タイトルの文字、照明で出したいね。

オフィスの中の休憩所みたいなところ。

シマダとナカイと一緒にオガタが座っている。

ササグチとハナゾノがオガタと話している。

オガタは結婚指輪をしている。

花園 それで、左に曲がって、最初の角のところにあるビルの3階のお店です。

緒方 うん。

笹口 わかりました？

緒方 あんまりわからなかったかな。

花園 じゃあ、もう1回説明しますね。

緒方 いいよいいよ。あとでラインでお店の情報送っておいてよ。

花園 説明しますって。

緒方 ネットで地図みたほうが早いから。

笹口 ちゃんと聞いててくださいね。

花園 会社を出て、左に歩いて、30メートル先を左に曲がって、100メートル先の信号を右、で、50メートル先の、

緒方 ねえ。

花園 はい？

緒方 教え方変わってるよね。

花園 そうですか？普通だと思えますけど。

緒方 そう。カーナビ？カーナビなの？ハナゾノさんって、カーナビの生まれ変わりなの？

花園 ちよつと前世のことはわからないですけど。

緒方 その説明だと、絶対に覚えられないから。

笹口 頑張れば覚えられますから。

緒方 いいから、ラインで送ってよ。

花園 オガタさん。

緒方 なに？

花園 そしたら、お店がわかつちやうじやないですか。

緒方 お店を教えてくださいじゃないの？

花園 いや、お店の場所は教えたいんですけど、どんなお店なのかは知られたくないですよ。

緒方 なんで？

花園 どんなお店なのか、来るまでわかんないほうが、楽しいと思うんですよ。

緒方 そうかなあ。

花園 ワクワク感っていうか、そういうのあったほうがいいじゃないですか。

緒方 そんなのいらないけど。

花園 えー？いりますよ。ねえ。

笹口 うん。だって、オガタさんの送別会ですよ？

花園 さようならー！

緒方 はい、さようなら。私の送別会だからさ、そんな若者みたいなことしなくていいよ、って。普通の

飲み会みたいな感じでいいんだよ。まあまあお婆さんの送別会なんか。

花園 楽しいほうがいいと思うけど。

緒方 楽しいほうがいいかもしれないけど、このままだと、私、送別会に辿り着けないと思う。

笹口 頑張ってくださいよ。

緒方 でもさあ。

笹口 頑張りましたよ！

緒方 頑張れないって。

笹口 私が説明しますから。

緒方 ササグチさんの説明、聞く前からヤバそうだもん。

笹口 会社を出て、左に歩きます。

緒方 はい。

笹口 少し歩いたところに、白き衣をまといし男の像がありますので、

緒方 ケンタツキーかな？

笹口 男の視線の先へと進んでいきますと、やがて青黄色赤の3色の目をもつ怪物がそびえたって

緒方 信号だよね。めんどくさい。もう聞くのがめんどくさい。お願いだからラインで送って。

笹口 わかりました。

ササグチはスマホを取り出して、ラインを送る。

花園 知らないで来たほうが絶対楽しいのに。

緒方 そんなかわった店なの？普通の店でいいんだけど。

オガタはスマホを見る。

緒方 あ、違う違う。

笹口 はい？

緒方 白き衣の説明を送ってほしかったわけじゃないの。

笹口 え？

緒方 普通にお店の情報を送ってほしかったの。

笹口 あ。

花園 ササグチー。

笹口 あー。そうだったのか。

花園 ササグチでもそんなことあるんだねー。珍しい。

笹口 なんていうミス。

花園 この事件のことは、私、一生語り継ぐよ。

ササグチどこかに行こうとする。

緒方 どうしたの？

笹口 頭を丸めてきます。

花園 行ってらっしゃーい。

緒方 なんでなんで。

笹口 このようなミスをしてしまった自分を許せないの。

緒方 たいしたミスじゃないじゃん。

笹口 いえ。行ってきます。

緒方 やだやだやだやだ。

オガタはササグチの腕をつかんで止めた。

花園 オガタさんはなんで会社辞めちゃうんですか？

緒方 このタイミングで聞く？

花園 気になったから。

緒方 ササグチさん坊主になっちゃうよ？

花園 似合いそうですよね。

緒方 似合うか似合わないかの問題ではないの。

ササグチは行こうとする。

緒方 やだやだやだやだ。

笹口 何が嫌なんですか。

緒方 私のせいでササグチさんが坊主になったら嫌なんだよ。会社でササグチさんの坊主頭を見るたびに、

悪いことしたなあ、って思いたくないんだよ。

笹口 オガタさんは、明日から会社にいないですよね？

緒方 あ、そっか。

笹口 ですよね。

ササグチは行こうとする。

緒方 やだやだやだ。

笹口　なんでですか。

緒方　とにかくやだなの。

花園　オガタさん。なんで会社辞めちゃうんですか？

緒方　見えてますか？私とササグチさんのやりとりがあなたには見えていませんか？

花園　見えてますよ。

緒方　だったら今じゃなくない？

花園　？

緒方　もういいや。会社を辞める理由はね、教えない。

花園　えー。

緒方　そしてササグチさん。

笹口　なんですか。

緒方　行け行け。行っていい。坊主にでもなんでもすればいい。

笹口　急にどうしたんですか？

緒方　どうせ今日で辞めるんだし、どうでもよくなったよ。

花園　ねえ、なんで教えてくれないんですか。

緒方　うるさいなあ。

花園 （小さな声で）なんで教えてくれないんですか？

緒方 声のボリユームの話じゃないの。

花園 教えてくださいよ。

緒方 めんどくさいなあ。：モツツアレラ職人になるからだよ。

花園 なんですかそれ？

緒方 モツツアレラチーズを作る職人。うちは先祖代々モツツアレラ職人の家系なの。だから、会社辞めて修行するの。

花園 へえ。

緒方 はい。これで話は終わったね。

花園 はい。

笹口 お店の情報はすぐに送りますね。

緒方 よろしく。

花園 じゃ、失礼します。

緒方 はい。

ハナゾノとササグチは去る。

中井 信じるかね？

緒方 ん？

中井 いや嘘でしょ？モツツアレラ職人とか。若いって恐ろしいわー。

緒方 え？本当だよ？

中井 え！？そんなことあるんだ。

緒方 うん。

中井 あ、そう。

嶋田 ナカイもたいがいだね。

中井 なに？

嶋田 信じるかね？

緒方 ね。

中井 え？

嶋田 先祖代々モツツアレラ職人の家系なんかイタリアにしかないよ。

緒方 だよね。

中井 なんだよ、やっぱり嘘かよ。

緒方 そりゃそうでしょ。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

シュカシュカ（おためしサンプル）

2019年9月23日 初版発行

著 者 関村俊介 © 2019年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529
